

# 組織活動の全体を視る

見えている世界があるが、見ているとは限らない。見えるはずであるが、見たいところ以外は消えている。

キャリア・アップしていく人は、組織と社会の全体を視て、自分の仕事と組織を考えている。

視野は次第に拡大する。

リスクを小さくしようとして目的が小さくなっていく。

仕事の責任はまっとうしなければならないが、仕事の枠に取り込まれてはならない。

- a社会観察
- b市場観察
- c顧客観察
- d自社観察

観察

変化認識

意思決定

目的設定

責任者設定  
達成日設定

戦術分析  
戦闘分析

戦略策定

各部署  
行動・戦術

役割  
分担

責任  
分担

各自  
成果

各人の仕事の範囲は次第に小さくなっていく。

何々観察とした時、観察対象が固定され、持っている知識の範囲で観察が続けられてしまう。

この範囲は、職位職種に関わらず、誰もが知覚でき、分かる。新人でも同じである。

自らが成した仕事の結果が、如何に組織目的に関わっているかを明瞭にして、遣り甲斐と誇りが産まれる。

組織は、各人の役割が、組織の成果になっていると明らかにするように試みなければならない。

上位職の人たちは、職務範囲に関わらず、部下の意見を聞く姿勢を持つようにし、部下にその機会を設けるようとする。

自らの役割と仕事の結果を通して、仕事の方向、組織活動の方向について、新人を含め、すべての人材が考えと意見を持てるはずである。